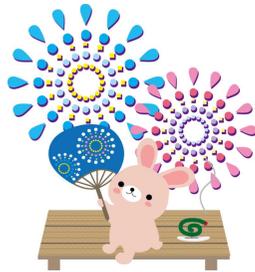




笹中だより

伊丹市立笹原中学校 学校通信
第2号 令和3年 7月20日
編集責任者 校長 菰口太志

さあ、明日から夏休みだー！



さて、いよいよみなさんお待ちかねの、40日間の夏休みがスタートします。部活動をはじめこんなこともやってみたい、いろんなところへ行ってみたい・・・など、楽しい計画が一杯で、心はウキウキだと思います。でも、その一方で、「大変だなー」とみんなを少し悩ませる「コロナ」もありますよね。生活面・学習面ふくめて、自己管理あるのみです。普段学校で生活している時と違い、チャイムがなりません。まさしく、「自治・自立（自律）」です。

「1 学期終業式でのお話し」

いよいよ、今日で1学期が終わります。昨年とは違い、一昨年までのように40日間の夏休みとなり、おうちや地域での生活が中心となります。もちろん、3年生は、進路実現に向けて、部活動が「勉強部（通称ペンブ）」に転部、（文化部の3年生のみなさんはあと少しがんばってください）するわけですし、1・2年生のみなさんは、新チームとして、9月の新人大会に向けて、基礎からやり直すでしょうから、全く学校に来ないわけではないです。

しかし、学校でも、おうちでも、チャイムが鳴ることはありませんので、自己管理の40日間です。どの学年も「自治や自立（自律）」を目指していると思いますので、それが試される40日間になると思います。

そこで、是非みなさんにやって欲しいことを言います。それは、脳をだまして、「やる気スイッチ」入れるということです。これは、脳科学のお話しになります。

実は、私たちの脳には、左右に1つずつ、側坐核（そくざかく）と呼ばれる、通称「やる気スイッチ」と言われる部分があります。このスイッチは、外からの刺激があって初めて動き出します。つまり、何か身体を具体的に動かすことで、そのスイッチが入って、どんどんやる気になっていきます。

例えば、軽い気持ちで部屋のそうじをし始めたら止まらなくなり、「ここまで徹底的にやるつもりはなかったのに」と思うくらいピカピカにしてしまったということはないでしょうか？ ついつい「やる気ないと行動できない」と考えてしまいがちですが、それは全くの逆で、「行動するうちにやる気は出る」、つまり、行動しない限り、いつまでたっても「やる気スイッチ」はエンジンがかからないということなんです。

勉強のやる気が全く起こらない時でも、まずは教科書を開いてみたり、自分の得意な科目や作業から始めてみることです。

最後に、夏休みのスローガンをみなさんに伝えて、終わります。これは、西宮市の大社中学校の校門を入ったところに、大きく飾ってある「死ぬな、けがすな、病氣すな」のことに、私が後半をくっつけたものです。

「死ぬな、けがすな、病氣すな」
「迷惑かけるな、悪さすな」
「チャイムなくても、自己管理」



【 通知表の見方・振り返し方 】

～ 令和3年度より変更になりました ～

今日は、各クラスで「通知表」をもらったと思います。すでに、プリント等でお知らせはしていますが、今年度から「通知表」の観点、ABCのつけ方、5段階評定のつけ方などが変更になっていますので、再度、簡単にその説明をします。少し、私の私見が入る部分もありますが、これを参考にして、夏休みの振り返りをお願いします。

1. 全ての教科が共通の3つの観点で評価

昨年までは、ほとんどの教科が4つの観点（国語は5観点）で評価され、その内容も教科ごとで決まっていた。例えば、英語なら「関心・意欲・態度」「表現の能力（話す・書く）」「理解の能力（聞く・読む）」「知識・理解」の4つでした。ところが、今年度より「総合的な学習の時間」を含めて、全ての教科で、共通した3つの観点で評価することになっています。簡単に整理すると、以下の3つの観点です。

①「知識・技能」②「思考力・判断力・表現力」③「学びに向かう力」。これら3つの観点を各教科において、中間・期末テストはもちろんのこと、スピーチ、作品、実技、ノート、振り返りシート（サクセスシート）、授業中の取り組み方の様子、テスト直しのプリント、小テスト、単元テスト、ペア・グループ活動・・・など、様々な項目をみて評価しています。

それぞれの項目について一定の基準を設定し、それがクリアできていれば「B」、そのクリアの程度がかなり上まわっていれば「A」、クリアできていなければ、「C」となります。

2. 3つの観点から5段階評定へ

上記の3つの観点それぞれに「A・B・C」がつけば、それらを総合して、5段階評定をつけます。A=5、B=3、C=1として、その合計を3で割った数値を四捨五入したものが、その学期の評定となります。この時、各観点の重み付けはしないことになっていますから、単純に、A、B、Cそれぞれの個数によって、5段階評定はきまります。

例えば、Aが2個、Bが1個なら、 $5 \times 2 + 3 = 13$ 、 $13 \div 3 = 4.3333$ となり、四捨五入で評定は「4」となります。評定で「5」になるのは、3つの観点全てが「A」でそろわないと、つかないこととなります。

3. 3つの観点の内容について

これだけを聞いても、各観点の中身・内容がわからなければ、「C」を「B」に、「B」を「A」にあげることができませんよね。各観点の「A・B・C」があがらなければ、評定の数値が勝手にあがることはありません。

そこで、各観点の中身について、具体的にイメージができるようにお話します。スポーツが一番わかりやすかもしれませんので、体育の「バスケットボール」の単元、スリーポイントシュートを打つ練習の授業で考えてみます。

①「知識・技能」としては、シンプルに10本中何本ゴールに入るか、どの角度からでも入るか、スリーポイントの打ち方・こつがわかっているか、などになります。

②「思考力・判断力・表現力」としては、実際に試合（ゲーム）の中で、この技能が活かせるかどうかになります。例えば、どの場面なら、スリーポイントを打つべきなのか、自分がボールをもった位置、相手デフェンスの人数、味方の位置、点数差、残り時間、などなど、その時の状況判断をした上で、スリーポイントを打つ。自分がスリーポイントが得意だから、ただただ、打つというのでは、「思考力・判断力・表現力」は、「A」どころか「B」になるのも難しいかもしれません。ゲーム中の作戦会議で、グループで戦術を話し合う場面も、この観点に入ると思います。



③「**学びに向かう力**」としては、ゲーム後の振り返り、次のゲームに向けての練習の場面において、どのような練習内容を行うかになります。ゲームでスリーポイントをたくさん外してしまったからといって、単純に、10本、20本と練習するだけではダメなんです。そこには、練習の質が問われます。例えば、右サイドからのシュートをよくはずしたのか、左サイドからなのか、どの展開の時にはずしたのか、何か1つフェイントをかけてから打つべきなのか、そのためにどんな練習をすればいいのか、などになります。もちろん、友だちや先生からのアドバイスを取り入れていく力も含まれますね。

これまでは、とにかく一生懸命やるだけで、何とか努力点として認められていたのが、それに加えて、「**正しい努力・成果が出るような努力**」までを求められています。

以上は、「サッカー」や「バレーボール」、音楽の合唱練習などでも同じように考えられると思います。

ちなみに、英語の授業で「自己紹介文」を作成することがありますが、I like baseball. I like Shouhei Ohtani. I like MLB. . . .と、羅列しても、①の観点としては、クリアになるかもしれませんが、②の観点としては、クリアにはなりにくいと思います。また、テスト後の「テスト直し」プリントで、間違えた単語を10回、20回と単純に書いたプリントを提出しても、それだけでは、クリアにはならず、**間違えた原因・理由の分析とそれに応じた「テスト直し」をしなければならない**ということです。私も、昔先輩の先生に言われた記憶があります。「**それって、単なる作業、手の筋トレやなあー。**」と。



以上が簡単な説明になります。不十分な点もあるかと思いますが、これらを参考にしてください。1学期の振り返りを、ぜひ夏休みにしてください。

もし、何かお尋ねになりたいことがあれば、直接各学年・教科の教員に尋ねていただければと思います。もちろん、私ができることであれば、説明いたしますので、ご連絡いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

夏休みを5倍充実させる7つのポイント

1. 午前中を有効活用して、2時間の学習時間を確保する。
2. 計画表に、生活・学習の毎日の記録をつける。早寝・早起き・朝ごはん！三食固定！
3. **夜11時以降**の夜ふかしは絶対しない。スマホ・ゲーム・LINEなどのコントロール！
4. 部活動、ラジオ体操、プールなど、**運動を必ず取り入れる。**
5. 毎日欠かさず行う**家の仕事**をひとつはつくっておく。
6. 今日できることは今日のうちに。**積み残しが積もれば山となる！**
7. 中だるみしそうな時は、家族、友人、先生からのアドバイスを**素直に受ける。**



★では**8月30日(月)2学期始業式**(まちがえないように!)に、**健康な身体と夏休みの学習が定着している健康な頭脳**を身につけたみなさんに会うのを楽しみにしています。